



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：クリントン米国務長官のトルコ訪問

(12日付現地紙)

2012年8月11日、米国のクリントン国務長官はトルコのイスタンブルを訪問した。その概要は以下のとおり。

1. ダーヴトオウル外相との会談

- (1) 「アサドなきシリア」への移行プロセスに関し、アサド退陣後の権力の空洞をつくらず迅速な移行を実現すること、そのための行動計画を作成すべくワーキンググループを設置することに合意した。これについてクリントン長官は、「我々はこの紛争の行く末について既に緊密に協力しているが、今や我々は行動計画について真の詳細に踏み込む必要がある」と言及した上で、新たなワーキンググループにおいて両国の軍事及びインテリジェンスを一層関与させることを明らかにした。
- (2) ダーヴトオウル外相はトルコが取り得る軍事的、外交的政策のオプションを説明。特に避難民が大量に押し寄せるなど、国境の安全保障に脅威が生じる場合を想定し、トルコ政府として一時的な安全保障地域の設置も検討していることを伝えた。
- (3) クリントン長官は、トルコが自らの安全保障のために取る行動は尊重するとしながら、安全保障地域の設置を含めあり得べき軍事行動に際しては、事前に米国と十分な情報共有と協議を行うよう求めた。またクリントン長官は、米国が11月の大統領選挙前に何らかの軍事作戦に参加できる可能性はないとの立場を伝えた。
- (4) ダーヴトオウル外相は、シリア反体制諸派間の不一致を解消すべくトルコが行っている努力を説明し、米国にも協力を求めた。特にシリア国民評議会とクルド反体制派の不和が取り上げられ、クリントン長官はその解消に協力したいと述べた。
- (5) トルコの懸念事項である PKK/PYD の台頭も議題となり、トルコと米国間の対テロ及びインテリジェンス協力の継続が確認された。
- (6) 会談後の記者会見でクリントン長官は、シリアに関しトルコと共同で今後のあり得べき行動のピクチャーを描いていくこと、暴力のエスカレート抑止を重視すること、シリアの混乱に乗じた PKK、アル・カーイダなどのテロ組織の台頭を許さずそのためトルコと協力していくことに言及した。
- (7) ダーヴトオウル外相は記者会見で、国際社会が一体となって行動する必要があるが、ロシアや中国の態度もあり国連安保理が動けない中、人道状況がますます悪化し大量の避難民発生もあり得、また化学兵器などの脅威もある状況下で重要なのは問題解決であ

り、更なる事態悪化のシナリオに対応するべく我々は安保理外でも現実的（プラクティカル）に対応していくと述べた。

2. その後クリントン長官はエルドアン首相と会談した。
3. クリントン長官は帰国前にギョル大統領を表敬した。ギョル大統領は、シリアの国家崩壊を阻止し、国家の一体性を維持しながら全ての宗派民族が代表された新国家に導く必要性を強調した。